
記憶

アポトキシン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

記憶

【Zコード】

Z2792E

【作者名】

アポートキシン

【あらすじ】

灰原から、もった解毒剤で少しの間だけ元の姿に戻った新一。自殺しそうな犯人を助けて変わりに落ちてしまった。新一は記憶喪失に。

プロローグ（前書き）

ど素人の私です。お手柔らかにお願いします。

プロローグ

その青年は、一人の罪人をかばい、冷たい海に落ちた。その青年の名は工藤新一江戸川コナンが戻ったのだ。そして工藤新一は、17年間の記憶をなくした。

前日

その時までは、まだ戻っていなかつた。服部達と、秘宝島という島に旅行に行く予定だ。コナンは、旅行に行く準備をしていた時・・・メールがきた。コナンは、携帯電話を見た。灰原からだつた今すぐ博士の家に来て。

灰原

コナンは、サッサと準備を終えて博士の家に急いだ。博士の家に着いた時は、息があがつていた。博士の家のドアを開けると、灰原が玄関で少しニヤニヤしていた。コナンの顔が少し青くなつた。コナンが口を開いた。

お前なんだよ急にメール送つて。

灰原は、

あなたに、いい情報をあげようと思ったのよ。と、またニヤニヤし始めたのでまたコナンは、顔が青くなつた。

プロローグ（後書き）

今度中間テスト。どうぞよろしく。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2792e/>

記憶

2010年10月10日04時31分発行